

社会 Book 6

●このテキストの使い方と特色●

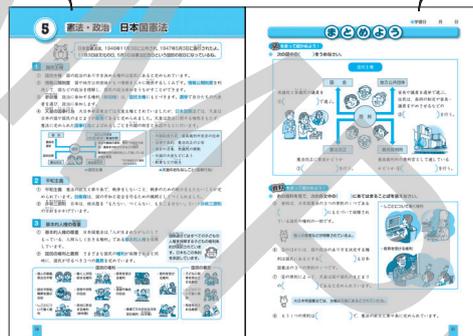
このテキストは、小学生のうちに身につけておきたい社会科の学習内容について、ひとつひとついねいにわかりやすくまとめたものです。

各単元の 組み立て

<学習の要点>⇒<まとめよう>の順に組み立てられています。

◆学習の要点◆

その単元で学習する基本的な内容を、図や史料などとともわかりやすく説明しています。



◆まとめよう◆

学習の要点で学んだ内容を、地図を見たり、年表・史料などを読み取ったりして、正しく理解できているかどうかを確かめましょう。

確かめよう

社会科について、新たな視点^{してん}を身につけたり、小学生のうちに覚えておきたい重要な内容について、楽しみながら学習できるコーナーです。

まとめの 問題

いくつかの単元を学習したあとには、まとめの問題があります。それぞれの単元で学んだことを、応用して考えることができるかを確認めます。

★いっしょに学ぼう★

しばわん



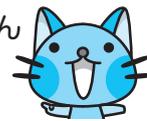
学習のポイントをいっしょに考えます。

先生



大切なことをわかりやすく教えてください。

みいさん



しばわんといっしょに社会科の学習をします。

もくじ

社会 Book ⑥

復習

1	地図・都道府県	4
2	農業・食料生産・水産業	8
3	工業・流通と情報	12
4	国土・環境	16

憲法・政治

5	日本国憲法	20
6	国会・内閣・裁判所	22
7	身近な暮らしと政治	24
◆	確かめよう！ 国民生活と政治のかかわり	26
●	まとめ① 憲法・政治	28

古代

◆	確かめよう！ 年表を読み取ろう！	30
8	縄文時代までの歴史	32
9	卑弥呼の時代	34
10	古墳時代	36
11	聖徳太子と中大兄皇子の時代	38
●	まとめ② 古代(1)	40
12	聖武天皇の時代	42
13	藤原道長の時代	44
14	平清盛の時代	46
●	まとめ③ 古代(2)	48

中世

15	源頼朝の時代	50
16	北条時宗の時代	52
17	足利義満・義政の時代	54
◆	確かめよう！ 古代から中世までを年表で確かめよう！	56
●	まとめ④ 中世	58

近 世

18	ヨーロッパ人の来航と天下統一	60
19	江戸幕府の成立と鎖国の完成	62
20	江戸時代の社会と文化	64
21	開国と幕府の滅亡	66
●	まとめ⑤ 近世	68

近・現代

22	明治維新	70
23	大日本帝国憲法の成立	72
24	日本の大陸進出	74
25	第一次世界大戦と日本	76
26	第二次世界大戦と日本	78
27	戦後の日本	80
◆	確かめよう！ 近世から現代までを年表で確かめよう！	82
●	まとめ⑥ 近・現代	84

国際社会

28	わが国とつながりの深い国々	86
◆	確かめよう！ 世界の国の名前を確認しよう！	88
29	国際協力と国際交流	90
30	世界をとりまく問題	92
●	まとめ⑦ 国際社会	94

これまでの総復習

31	これまでの総復習(1)	96
32	これまでの総復習(2)	102

写真提供(順不同)

アフロ、毎日新聞社、ロイター、読売新聞、AFP/WAA、AP、東京国立博物館蔵 Image:TNM Image Archives、東京都江戸東京博物館蔵 Image:東京都歴史文化財団イメージアーカイブ、神戸市立博物館蔵 Photo:Kobe City Museum/DNPartcom、国立国会図書館蔵、徳川美術館蔵 © 徳川美術館イメージアーカイブ/DNPartcom、写真提供:千葉県加曾利貝塚博物館、会津若松市立会津図書館蔵、所蔵:明治大学博物館 写真提供:岩宿博物館、宮内庁三の丸尚蔵館蔵、正倉院宝物、正倉院正倉、衆議院憲政記念館寄託、国立歴史民俗博物館、所有:文化庁 写真提供:埼玉県立さきたま史跡の博物館、十日町市博物館蔵、長崎歴史文化博物館蔵、静岡市立登呂博物館、東京大学法学部附属明治新聞雑誌文庫蔵、東大寺蔵 写真提供:公益財団法人美術院、東京大学史料編纂所蔵模写、© 平等院、結城素明「江戸開城談判」聖徳記念絵画館蔵、林原美術館、六波羅蜜寺アサヌマ写真スタジオ、鹿苑寺蔵、佐賀県提供、提供慈照寺、清浄光寺蔵、岐阜県文化財保護センター提供、茅野市尖石縄文考古館

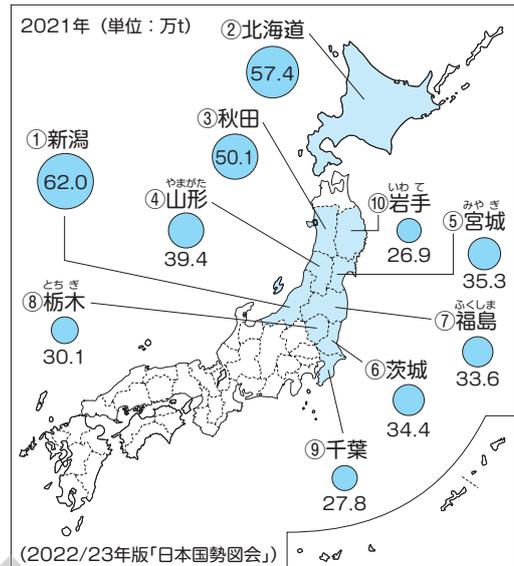
① 農業・食料生産



日本の農業は、どのように行われているのだろう？
これからの農業は、どのように変わっていくのだろう？

1 いなさく 稲作と野菜づくり

- 日本の農業は、稲作を中心に行われてきました。広い土地や豊かな川の水をいかして、北海道、東北地方や新潟県などでさかんに行われています。これまで、消費量が減り続けていることで、生産量を増やさないように、生産調整が行われてきました。
- 野菜づくりは、地域の特色をいかして、全国で行われています。大都市の近くで生産するため、新鮮な野菜が短時間でとどけられる近郊農業（茨城県、千葉県など）、すずしい気候をいかして、ほかよりおくらせて野菜をつくり出荷する抑制栽培（群馬県、長野県など）、ビニールハウスなどの施設とあたたかい気候を利用して、早い時期に野菜をつくり出荷する促成栽培（高知県、宮崎県など）などがあります。

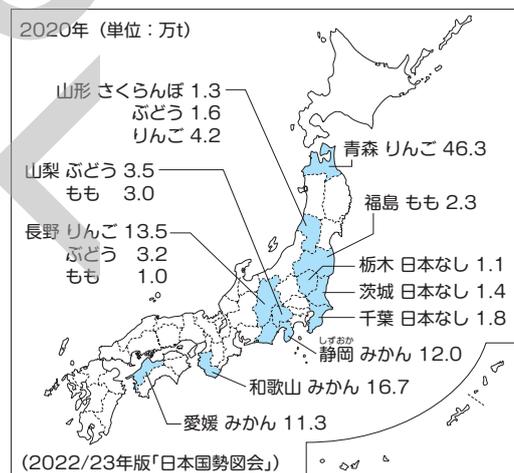


▲米の生産量が多い都道府県 (①～⑩位)

2 くだもの 果物づくりと畜産

- 果物づくりは、気候と土地の条件によって産地がちがいます。みかんは和歌山県や愛媛県などのあたたかい地域、りんごは青森県や長野県などのすずしい地域でさかんにつくられています。山梨県や山形県、福島県でも果物の生産がさかんです。
- 乳牛や肉牛は北海道や九州で、ぶたは九州などでさかんに飼育されています。にわとりの卵は、大都市の近くで生産されています。

畜産とは、牛・ぶた・にわとりなどを飼って、肉や牛乳、卵などを生産することです。酪農とは、畜産のなかでも、乳牛を飼育し、牛乳やバターなどを生産することです。



▲果物の生産量が多い都道府県

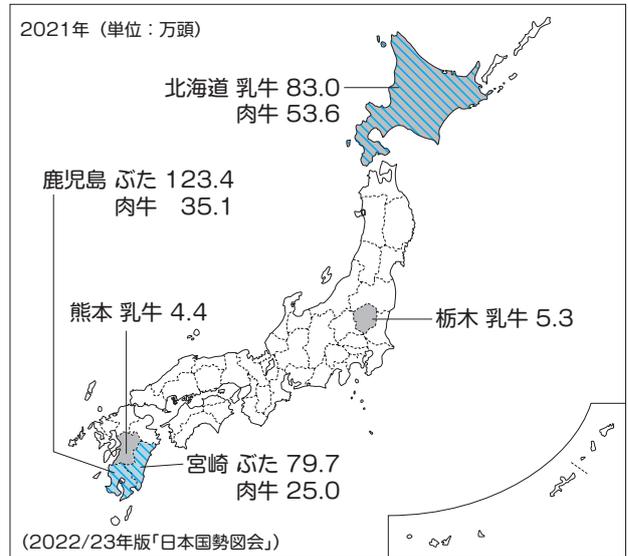
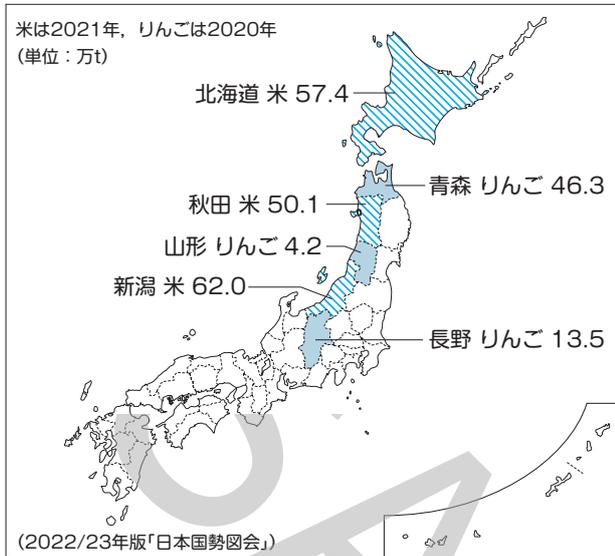
3 これからの食料生産

- 日本は食料自給率が低く、食料の多くを外国からの輸入にたよっています。国内での生産量を増やして、食料生産を安定したものにしなければなりません。
- 農家数が減り続けており、今後、若い人がやりがいをもって農業に取り組めるようにしなければなりません。また、安全な品質の食料をもとめる消費者が増えているため、農薬や化学肥料にたよらない有機栽培などの取り組みも行われています。

まとめよう

地図を使って確かめよう！

● 次の農作物の生産量、家畜の飼育頭数が最も多い都道府県名を答えなさい。



▲米とりんごの生産量の多い都道府県

▲家畜の飼育数の多い都道府県

- ①米〔 〕 ②りんご〔 〕 ③乳牛〔 〕 ④ぶた〔 〕

資料を使って確かめよう！

● 食料生産について、次の問いに答えなさい。

⑤ 野菜の生産について、次の農業がさかんな都道府県を
あとのア～オから1つずつ選び、記号で答えなさい。

- 近郊農業〔あ〕
- 抑制栽培〔い〕
- 促成栽培〔え〕

- ア 千葉県 イ 福井県 ウ 長野県 エ 大分県 オ 高知県

野菜づくりは、地域の特色を生かして行われます。あたたかい気候、すずしい気候、消費地に近いところ…など、それぞれよい値段で野菜が売れるような生産、出荷のしかたをしているんだよ。



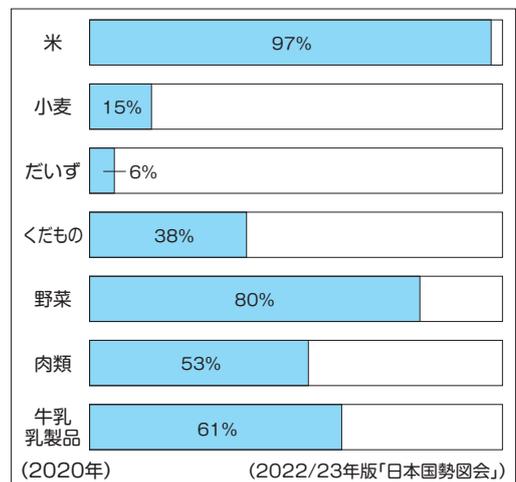
⑥ 右のグラフは、日本のおもな食料の自給率を表しています。自給率が特に低い食料を2つ答えなさい。

- 〔 〕〔 〕

⑦ これからの食料生産について誤っているものを、次のア～ウから1つ選び、記号で答えなさい。

- ア 農業で働く若い人を増やす。
- イ 外国からの食料の輸入をやめる。
- ウ 安全な食料をつくるために、農薬や化学肥料の使用をできるだけ減らす。

- 〔 〕



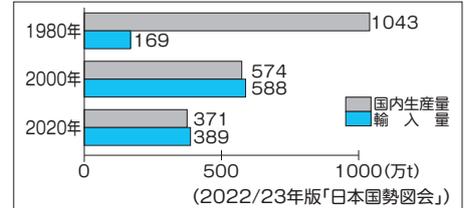
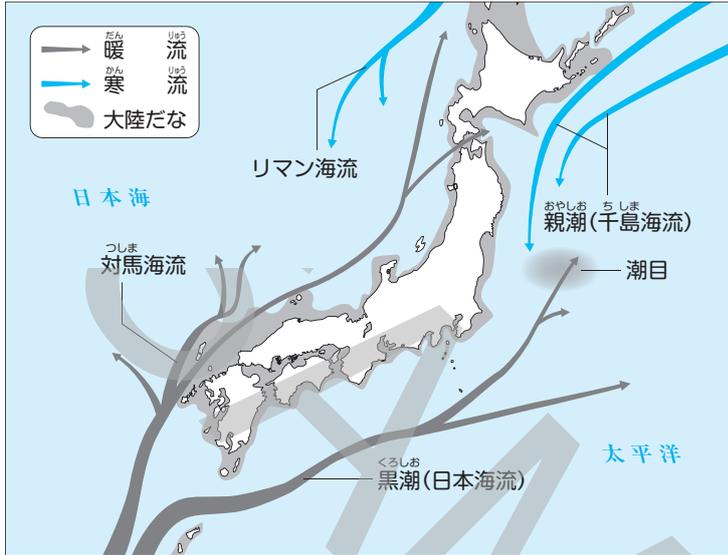
▲日本のおもな食料の自給率

②水産業

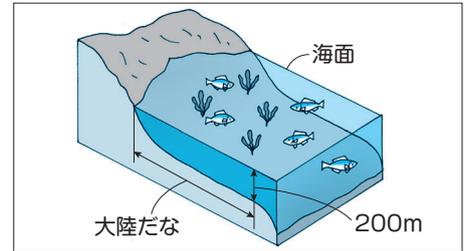


日本の水産業には、どのような特色があるのだろうか？
日本の水産業は、どのように変わってきているのだろうか？

1 日本の近海と水産業



▲魚介類の国内生産量と輸入量の変化

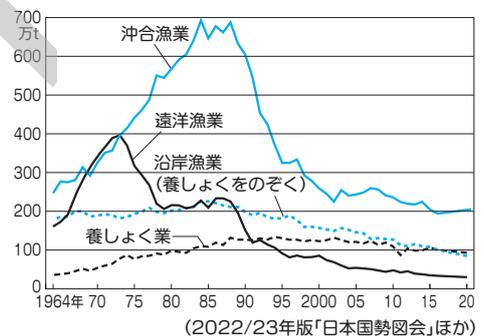


▲大陸だな

- ① 日本は、まわりを海に囲まれていて、昔から水産業がさかんでした。暖流や寒流が近くを流れ、海そうやプランクトンが多い大陸だなが広がっているため、よい漁場となっています。
- ② 水あげ量の多い漁港は、銚子(千葉県)、焼津(静岡県)、釧路(北海道)、境(鳥取県・島根県)、八戸(青森県)などで、港には水産業のためのさまざまな施設が整えられています。
- ③ 水産業のさかんな日本ですが、最近では水あげ量が少なくなっているため、水産物を輸入にたよる割合が増えています。

2 とる漁業と育てる漁業

- ① とる漁業には、遠洋漁業・沖合漁業・沿岸漁業があります。どの漁業も生産量は、水産資源の減少や、漁業で働く人の減少などで、少なくなっています。一定の大きさより小さい魚はとらない、漁の時期を決めるなどして、水産資源を守る取り組みが行われています。
- ② 漁業のなかでも遠洋漁業は、排他的経済水域の取り決めにより、自由に漁を行うことができなくなりました。生産量は1970年代から、大きく減り続けています。
- ③ 水産物の生産量を増やし、安定した収入を得るために、育てる漁業が行われています。育てる漁業には、養しよく業と栽培漁業があります。養しよく業とは、たまごからかえった稚魚などをいけすなどで大きくなるまで育てて出荷する漁業のことをいいます。栽培漁業とは、ある程度まで大きくなった稚魚を海や川に放流し、自然のなかで大きくしてからとる漁業のことをいいます。



▲漁業別の生産量の変化

養しよく業・栽培漁業では、魚類を育てるだけではなく、海をきれいにするなど、環境を整えることもたいせつです。



